

授業紹介、先生紹介

現代文Bの授業 担当:田島 有希 先生

2月16日(水)、若手教員の研究授業を実施しました。

対象の授業は2年次の「現代文B」、担当は田島有希先生、入都して3年目です。指導担当の先生をはじめ、多くの先生方が見学しました。

「評論(五) 他者への視点」という4時間の単元で、教材は橋本治氏の「敬語への自覚、他者への自覚」です。今日はその3時間目の授業で「接続詞に注意して、筆者の主張を説明する」ことを目標に行いました。若者言葉が方言であるという筆者の主張を理解した上で、「言葉の罨」とはどのようなものかを100文字以内で説明することをメインの活動としました。

生徒たちは、これまでに学習してきた評論文を読むときのポイントである【接続詞】にしっかり着目しながら、筆者の考える「言葉の罨」とはどういうことなのかを説明しようと熱心に取り組んでいました。



＜田島先生にインタビュー＞

Q 今回の授業で生徒たちに理解してほしいことは何ですか？

評論文を読む際は、単元に関わらず、どの文章でも接続詞を意識して読んでいくということです。また、記述問題に苦手意識をもつ生徒に、キーワードを抜き出して考えていくと、少しずつでも書けるようになることに気づいてほしいという思いで授業をしました。考えを出し合いながら記述問題に取り組もうとする生徒の姿を見ることができて私もうれしかったです。

生徒には、授業で学んだことが、今読んでいる文章にだけ通用する学習、ただ暗記して定期考査で点数を取ることができればいいだけの学習にならないよう、知識を蓄積してほしいと思っています。

Q 日頃の授業で大切にしていることは何ですか？

授業の内容を自分や自分の生活と関連付けて考えるということです。

例えば今回の授業では、「若者言葉＝方言」という筆者の主張を踏まえると、実は私達も方言話者なのかもしれない、と考えることができます。また、自分が普段使用している言語を振り返り、それが他者に与える印象を意識すれば、よりよい人間関係を築くことにつながることもできます。

一単元のどこかで、教科書や教室から（思考が）飛び出す活動ができたなら、と考えながら授業を作っています。

Q 葛総生に一言お願いします

「他者」との関わりをぜひ大切にしてほしいです。

自分だけの世界は、居心地はいいですが、発見は少ないです。人生には「ワクワクすること」が大切だと思います。いろいろな人と言葉を交わすことで、視野が広がり、今まで考えもしなかったことに気が付くこともあります。新型コロナウイルスの流行により、制限が多い中ではありますが、せっかく学校に登校して、同じ教室で40人と関わる機会があるのだから、多くの人と関わって「ワクワク」してほしいなと思います。

6月の土曜講習の様子 この時も接続詞の大切さを伝えていました

